

---

# もしもし、元気ですか？

ういん

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

もしもし、元気ですか？

### 【Nコード】

N0422M

### 【作者名】

ういん

### 【あらすじ】

その空を見て思い出したのは  
遠い故郷と、懐かしい思い出。

その空の色は、まるで彼女の瞳のようで  
遠く離れた故郷を思い出させたのだった。

もしもし、元気ですか？

雨。

それは大地に恵みをもたらすもの。  
だが、それが続くとなると話は別で、人々はだんだんイライラして  
くるものである。

そんな雨がやんだ今日は日曜日。

当然、街はここ数日で溜まった嫌な気分を晴らそうという人で溢れ  
ている。

そんな中、ある一軒の宿から赤いコートを着た少年と鎧の大男が出  
てきた。

「おつ、やっと晴れたみたいだな！」

「ほんとだ。それにしても凄い雨だったよねえ。」

「ああ。おかげでこっちは鬱陶しいやら付け根が痛いやらで溜まったもんじゃねえ。」

「僕も鎧が錆びてきちゃったよ・・・」

その言葉に少年      エドワードは苦笑して「後で磨いてやる」と返す。

二人は街の喧騒の中に紛れていった。

「わぁ、見てよ兄さん！！！」

しばらく他愛のない会話をしながら歩いていると、アルフォンスが急に驚いたような興奮したような声を上げた。

「いきなりどうしたんだよ、アル？」

「ほら兄さん！空が凄く綺麗！！！」

アルフォンスが嬉しそうに空を指す。  
その指を追いエドワードも顔を上げる。

「本当だ。」

「こんなに綺麗な空なかなか見れないよね！」

「・・・・・・・・」

（あれっ？）

兄からの返事が無いことを不審に思ったアルフォンスが振り返ると、そこには、何か思い出しているような、懐かしんでいるような、そんな顔をしたエドワードが空を見上げたまま立っていた。

「？ 兄さん、どうかした？」

「ん？ ああ、いや。似てるなど、思ってさ。」

「似てる？」

「あの空が・・・」

いったい空が何に似ているというのだろうか。

考えてみてもわからなかったので、そのまま兄の言葉を待つ。

「あの空がさ、似てると思ったんだよ。ウィンリィに・・・」

（ああ。）

その言葉ですべて理解する。

確かにその空の色は、幼なじみの彼女のあの鮮やかな瞳の色によく似ていて。

「思い出すね。リゼンブルのこと・・・」

きつと兄は幼なじみの彼女を思い出すと同時に、あの懐かしい故郷のことを思い出していたのだろう。

何もないただの小さな村だったけれど、確かに愛に溢れていたあの故郷のことを。

くすっ・・・

突然、エドワードが肩を震わせて笑い始めた。

「ほんとに、リゼンブルではいろんな事があつたよなあ。お前、村の子供全員で大人にいたずら仕掛けたこと覚えてるか？」

「覚えてる。後でものすごく叱られたからね。」

「あんなに怒ることでもなかった気がするんだけどなあ・・・」

「いやっ、あれは怒るって。」

「そうか？」

「そうだよ。はあ、まったくこのバカ兄は・・・」

地獄耳とはこのことだろう。

後半部分は兄には聞こえないようにと小さな声でつぶやいたにも拘わらず、エドワードは「誰が馬鹿兄だっ！！！」と言いつ返してきた。そんな兄をどうどうと宥めつつ、アルフォンスは話題をすり替える。

「そういえばさ、羊に追いかけて回されたことあったよね。」

「あゝ、あれか。あの時は本当に参ったよ。」

「森で迷子にもなった。」

「お前、半泣きだったよな。」

「そつ、それはしょうがないだろ！！！」

「・・・つぶ、はっはっはっ！！！」

二人分の笑い声が大空に響く。

思い出したのは、あの懐かしい故郷。

深い大きな森。

皆で遊んだ野原。

綺麗な花の咲く丘。

いろんな魚を捕った川。

村人より多いたくさんの羊。

母さんが作ってくれたおいしいおやつ。

それらに纏わるたくさんの思い出。

そして

大切な、家族のような、村の人々。

『もしもし、元気ですか？』

「・・・アル。」

「なに、兄さん？」

「イーストシティに行く前に、一旦リゼンブルに帰ろう。そろそろオートメールの整備に行かないとウィンリィが煩いだろうからな。」

「！　そうだね！！！」

空は蒼くどこまでも澄み渡っていた。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0422m/>

---

もしもし、元気ですか？

2011年1月25日09時06分発行